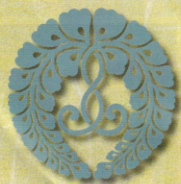


WA!



輪 つながり

和 平和

! 驚き

No.2



仏様の答え

先日クイズ番組を見ていると、珍しくすんなり解ける問題があり、答えも正解でした。普段はめつたに当てられないので、ちょっと嬉しい気持ちになりました。

ところで、仏様は、私達の住む世界は無常の世界だから、答えがあつたりなかつたりで、解決できるものばかりではないと説かれています。

例えば、「生老病死」という四つの苦しみがあります。

生 なぜ生まれたのでしょうか？なぜこの時代に？この国に？この家族に？自分で選択はできません。

老 長生きをしたいけど年はとりたくないといよく聞きます。かなり矛盾した考えですが、生きるという縁が続けば老いを避けることはできません。

病 だれもが病気になるかとは思っていません。もし今まで一度も病気になるた事がないという方がいれば、それは本当にうらやましいことです。しかし、今までなかつたからこれからもないとは言えません。いつたんかかかってしまうと、早く治ってほしいと思ってもなかなかそうはいかないのです。**死** 「死なない方法は、生まれてこないということです」と言われます。しかし、生まれているわけですから納得しにくいものです。

このように悩みとなる苦しみにはクイズとは違いすぐに答えがでることはありません。なかなか解決出来ないことを考えるのはつらい事です。しかし、解決出来ないこともあるという厳しい現実を知るのも大切なことです。

心も身体も自分自身のものでありながらどうすることもできなくなり、自分の命の往く先も自分で決められないということもあるのです。しかし、この命の答えは私が考えてだすのではなく、仏様が出ていてくださいます。そのお慈悲のはたらきをお寺で聞かせていただきますしよ。

平成十七年度の後期指導者学習会が二月二十二日に広島別院にて開催されました。

まず、午前中は、県立広島大学助教授である若林文字先生より「子どもと体を育む運動遊び・表現遊び」というテーマで講義いただきました。

事前に若林先生より講題を頂戴し、また「当日は動きやすい服装をして下さい」とも伝えられていたので、ある程度は体を動かすだろうなと予測はしていたものの、次から次に実践されるアイデア満載の運動遊びや表現遊びで、文字通り息つく間もないくらいの充実した内容でした。



若林文字先生とまずはストレッチ



その中の一つを紹介すると、2人組みで前後に並び、後者が目を閉じた前者の肩を持って運転操作する、2人でドライブ」という遊びがありました。後者は同時に運転走行している他のグループに衝突しないよう巧みに回避しなければいけません。それ以上に問われるのは、コントロールされる前者の恐怖心の克服です。目を閉じ、「一寸先は闇」の状態の前者は、後者に身を委ねる以外に方法はないのですが、いざ歩を進めると疑心暗鬼になって存外スムーズに動けません。つまり、この遊びは、人を信頼することの大切さを教える遊びでもあったのです。

以上のように、今回ご指導いただいた多種多用の運動遊びや表現遊びを通じて感じたことは、楽しい遊びの要素の中に、日常生活を送る上においても不可欠なコミュニケーションを図ることが、創造性を育む要素が盛り込まれていたことです。

今後の少年教化活動において、大変に参考になる講義でした。

午後からは、樽谷英子先生より「パネルシアター」についてご指導いただきました。



樽谷英子先生

パネルシアターとは、布を巻いた板（パネルボード）に専用の紙（不織布）で作った人形や絵を貼って、歌やお話を楽しまむお芝居のようなものです。

「百聞は一見にしかず」ということで、早速に作品紹介に移り、「とんでったバナナ」や「こぶためきつねこ」等を披露いただきました。歌詞の場面展開に合わせて絶妙なタイミングでパネルボードに次々と絵が貼り付けられてくるにしたがつて、最初は緊張の面持ちで見ていた参加者も、貼られた絵が微妙に動いたり、見えたりする演出も相まって、いつの間にかパネルシアターに魅了されている様子でした。

その後、あらかじめ班分けしていたグループごとで実際に作品作りにもチャレンジしました。やはりクラフトは好評のようで、不慣れな作業の中にも笑みがこぼれ、童心に返つ



て皆が取り組んでいるようでした。

最後にブラックシアターの披露もしていただきました。このブラックシアターとは、暗室でブラックライトを使用し、蛍光塗料で彩色した絵を貼るという点以外に通常のパネルシアターと差異はないのですが、その効果は絶大で、暗闇に作品が浮かび上がり、パネルボードに幻想的な雰囲気が出されました。

以上のようにパネルシアターを開演するにあたっては、ある程度の下準備や経験は必要です。しかし、子ども達にも出来るだけ参画してもらい何か作品が完成できれば素晴らしいし、更に創意工夫して、親鸞聖人のご生涯や、仏典物語なども披露できたら最高だなと感じました。



少年教化でレクリエーションの時間を設けている会が多いのではないのでしょうか？

そのレクリエーションの中で、特に全体ゲームは人と人とのふれあいの中から生まれる「輪」を構築していく上で非常に効果的です。

しかし、指導者の誰もがゲームに困ったり、また一生懸命考えたゲームが意外と盛り上がりなかったというような経験があるかと思います。そこで、準備やルールは簡単でも、みんなで楽しめる全体ゲームを紹介します。

【ゲーム名】「遊びに行こうよ！」

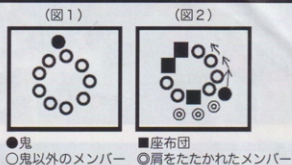
【人数】5～20名

【隊形】鬼を1人決めて、他のメンバーは円を作る。

【準備物】座布団（必要数：参加人数－1枚）

【ルール】

- 1、まず、鬼を1名決め、鬼以外のメンバーは円を作る。この時、円の中にいる人は座布団を用意してその上に座る。（図1）
- 2、リーダーの合図で円の外をスキップで回り出す。そして、走りながら、円の中で座っているメンバー誰でもいいので、1人に「遊びに行こうよ！」と言いながら、肩を1回たたく。
- 3、肩を叩かれた人は、鬼の後ろを一緒にスキップでついていく。
- 4、鬼は何人でもよいので座っている人の肩を「遊びにいこうよ！」と言いながら次々とたたいていく。たたかれた人は同じように鬼の後ろについていく。（図2）
- 5、何人かついてきたところで、鬼が後ろを向いてついてきた人に向かって「バイバイ！」と言って手を振る。
- 6、鬼を含めて円を回っていた全員が急いでサークルの中に戻る。
- 7、鬼が円の中に入ると座布団が1枚足りなくなり、必ず1人座れなくなるので、次はその子を鬼として同じルールで続けていく。



●鬼
○鬼以外のメンバー
■座布団
◎肩をたたかれたメンバー

hint!

※わざと鬼になろうとする子も出てくるので、簡単な罰ゲーム（自己紹介）など用意すると、より子どもが真剣になります。

※肩を叩く人数を何人以上とか、同姓だけに偏らないように男女交互に肩を叩いていかなければならないようなルールを作るとよい。

【ゲーム名】「ジャンケンフルーツバスケット」

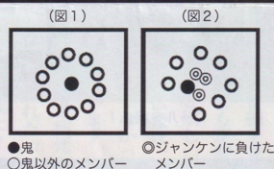
【人数】5～20名

【隊形】鬼を1人決めて、他のメンバーは円を作る。

【準備物】特に必要なし

【ルール】

- 1、鬼を1名決めて、他のメンバーは円になる。鬼は円の中央に立つ。（図1）
- 2、鬼とそれ以外のメンバーで一斉にジャンケンをする。
- 3、負けた人は円の中央に集まり、他の負けたメンバーとジャンケンをする。（図2）
- 4、ジャンケンに勝ったら円に戻るが、負けたらまた他のメンバーとジャンケンをする。
- 5、ジャンケンに負けつづけ、最後に残った人が次の鬼となり、同じように続けていく。



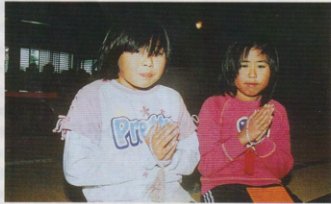
●鬼
○鬼以外のメンバー
◎ジャンケンに負けたメンバー

hint!

※ジャンケンに負けた人が前に出るだけでなく、あいこの人も前に出るというようにルールを変えていくと変化があってさらに楽しいです。



開会式恒例のプラカード入場です
参加単位会の紹介もあり、みんな得意げです



調声の女の子！緊張したけど大きな声で
「らいはいのうた」をおつとめました



ゴールを狙え！



「トトロファンタジー」の演奏ではトトロのぬいぐるみも登場し「小さな世界」ではポルテージも上がり、みんなの大きな歌声が別院本堂に響きわたりました。

十月二十二日、広島別院において第三十八回報恩講子ども大会が盛大に開催されました。(参加人数四百名弱) 開会式の後、武田一真師(安芸北組・龍仙寺副住職)より、ご法話をいただき、聴聞の後はわいわいランドの屋台で舌鼓。お腹が膨れたら楽しいゲーム(ストラックアウト・サッカー・ダーツ)も



参加者によるおごそかな
献灯・献華・献香

のづくりなど)に興じました。今回のアトラクションでは安佐北シンフォニックウインズの皆さんの素晴らしい迫力ある演奏を堪能しました。たくさんのお友達の歓喜の様子を写真で紹介して大会の楽しい雰囲気をお伝えいたします。(広報部会 武田義香)



わいわいランドたべものコーナーではたくさん
の有志の方々のご協力で美味しくいただきました



推進委員の寺西真弥さんが所属する安佐北シンフォニックウインズのみなさん

♪安佐北シンフォニックウインズ♪

●皆様の少年連盟への情報やニュースを募集いたします(教務所 kyouku@akior.jp)